

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	入居者・職員・地域との会話から和やかな雰囲気となり、関わりを持ち輪が広がっていけるように理念作り。	○ 「話」「和」「輪」の実践。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝申し送り後、運営理念を唱和し、実践に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	利用契約書の中に記載し、掲示板にも貼っている。又、併設施設等にもパンフレットを置いたり、のぞみ便りも発行している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩に出かけたりしたとき、ご近所の方への挨拶や入居者から話しかけたりする。	○ 隣近所の方々と土いじりをしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	9月の長寿園祭りを通して地域の方々と交わったり、小中学生たちの訪問がある。	○ 敬老会などに参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への取り組みができていない。	○	当グループホームの入居者と共に地域高齢者の方々との相互関係を築いていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を頻回に見直し、成果を見直せていない。	○	自己評価の結果を全職員に周知徹底し、ケアの質向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員のメンバーを構成し、運営状況等の報告を行っている。	○	報告や情報交換にとどまらず、運営推進会議と評価を結びつけ、質の確保、向上を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度市役所に現状報告を行い連携を深くし、協力関係を築く取り組みをしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースは現在ない為、管理者は制度を理解しているが、他の職員は理解していない。	○	権利擁護に関する制度の研修に参加し理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	威圧的な声かけや大きな声となることがある。	○	職員同士のコミュニケーションや相互注意をし、見過ごすことがないように徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとって契約書を見てもらいながら説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一部の入居者は訴えていることができる。	○ 入居者が平等に意見が言える場所や機会を作っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族連絡表を作成し、記載・報告している。お便りに個別に近況を記載し、伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換の場を設置。 意見箱を設置し、苦情・意見に対策するよう職員同士の話し合いを開いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	数ヶ月に1回は個人面談を開催し、その他状況に応じて話を聞いてくれている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間をずらして余裕のある勤務ができるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットで交替がある時も、少人数のみで対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるように配慮している。研修内容は全職員に報告し、共有しあってケア向上に活かしている。	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修や事例検討発表等に参加し事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。近隣のグループホームと交換研修を行った事がある。	○	交換研修の機会を定期的に設けたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的に親睦の場を作り気分転換が図れる機会を設けている。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の資格取得に向けた相談、アドバイスをしている。向上心がもてるよう職場環境等配慮工夫している。	○	研修希望があれば勤務体制を調整し研修を優先している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面談をする機会がないため、実施できていない。	○	事前面談に対応できるようにしていきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族の不安事や心配事に配慮し、家族との話し合いの機会を作っている。	○	入所後も家族から気軽に不安事や心配事を言ってもらえるよう信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望があったときには、グループホーム内の見学や説明を行っている。	○	地域包括支援センターとの連携をこまめにとり、情報を提供できる知識を持ちたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室ドアを開放しホールの雰囲気が分かるよう、又、本人のペースで徐々に馴染めるよう工夫した。	○	新しい入居者様により混乱を招く入居者様にも自然と馴染めるよう、職員の関わりを増やしていくようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から学ぶこと、又、注意されることもあり、共に生活している。入居者様の趣味を活かし、コップカバーを作ってもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催して、家族同士の談話や職員との談話により関わりを持っている。	○	互いにとって良い関係が築けるように関わりを増やす。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と入居者様の面会が減少気味になるとお便りや連絡にて情報提供する。そのことにより外出の頻度が増えた。面会時には本人と家族の時間を大切にもらうため、職員は退室し、ゆっくり話ができる時間を作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人に電話できている。本人より電話したいとの希望があるときには、一緒に公衆電話へ行き、馴染みのある人とコミュニケーションを図れるよう援助している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関わり合いはあるが、独りで過ごす方もいる。	○	職員が間に入り、入居者同士のコミュニケーションを図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家人が来所して、現在の報告を受けたりしている。	○	長寿園祭り等行事の参加の声かけをしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りにくい発語を行動や表情から読み取り、本人が穏やかに過ごしていけるように本人のペースに合すように支援している。	○	現在の状況に納得せず入居者様の本意を理解できるよう職員同士繰り返し話し合っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バッググラウンドアセスメントにての把握、家人・本人からの情報。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	見守り、観察、記録や情報交換により把握する。	○	情報のみにとらわれ、残存機能を活かすことができていない所もあるため、モニタリングを行うようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望に添ったケアプラン作成、又、家族の希望。	○	本人の希望、家族の希望には、どういった心理があり、気持ちなのかということ把握したい。そのためにも家族も参加したカンファレンス。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際に、ケアプランの見直しができなかった。	○	月1回ケアプランの見直し。又、状態変化時の見直しをしていくよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ニーズに応じて個別にカルテを記載している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の付き添い、点滴施行時の見守り・付き添いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの来所はあるが、民生委員等との関わりがない。	○	地域資源が活用できるように取り組む。(図書館等)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容室、訪問販売(パン)を利用している。	○	近隣の温泉施設を利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡・情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員と一緒に受診へ行く。 本人の希望、家族の希望にて他院を受診することもあり。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳外科受診と定期的に行い、相談やアドバイスを受けている。定期的にかな拾いを行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	外来看護師との連携。1日1回は来所し、健康管理をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には顔を見せに行ったりして、再入所には早く馴染めるようにしている。	○	もっと頻繁に交流を増やし、入居者様が孤独感に浸らないように努める。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に情報の交換、容態の変化に合わせて、こまめに家族と相談し、医療機関との連携を図っている。	○	容態の変化に対応できる知識を身につけるようにしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に関しては、医師等との連携を図っている。	○	終末期に関しての話し合いの機会を増やしていきたい。新人職員もいるため医師との連携もとりやすく勉強会を開き、備えたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活歴・サマリーを細かく情報提供している。	○	住み慣れた環境が続くよう、本人・家族との話し合いを重ねていくよう支援したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ドアをノックする。 個人の物に触るときや預るときは本人に一言かけている。 トイレ誘導時にはドアを閉めプライバシーを守っている。	○ 職員が一方向的に会話を進めず、本人の意思や気持ちを尊重するようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた選択プランを用意し、選択できるようにしている。	○ 複数の選択肢を作っていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれに合った食事の量を提供し、ゆっくりと食事ができるよう時間を設けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧が好きな入居者は、お風呂上りに自ら化粧をしている。	○ 訪問美容室でカット時には、自分の希望を伝えている。 多数の訪問美容室を依頼したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで同じメニューを食事している。 準備に入居者が自分で盛り付けられる人は盛り付けてもらっている。	○ 片付けも一緒にしたり、入居者同士が協力し合っている。 一緒に食材を選び、作っていく機会を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みのおやつを提供したりしている。居室で管理しているお菓子は自由に摂取してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間、紙パンツを使用する方でも日中は布パンツで過ごせるよう支援している。 トイレ誘導を増やし、尿意・便意の行動の変化にも気をつける。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々に入浴するようにはなっているが、仲の良い入居者同士は一緒に入浴して楽しむこともある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか寝付けない人に対しては、寝つけるまで添い寝したり、傍に付き添う。	○	個々に合わせた就寝時間でゆとりある安眠をしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋上に洗濯物を干しに行ったり、ごみ捨てを兼ね、散歩をしている。又、大正琴を用いて音楽を聴いたりしている。	○	個々の好みの合った楽しみ(カラオケ等)ができる機会を作っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人からの預り金もあるが、本人が持って買い物の支払いも本人が行っている。個々によって小額ではあるが、本人が管理している。支払い時は見守りを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院や散歩に出かけたり、近くのペットセラミーに出かけたり、又、外食に行ったりしている。	○	本人の希望に添い、自由に外出ができるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出になると車酔いをする方もいるので、ドライブレクができない方には、近くの神社に出かけている。	○	観光場所(お寺など)少し遠出ができるよう支援したい。 車酔いをする方に関しては、医療と連携し、薬剤(酔い止め)を使用したり、歩行で行ける場所を選んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔の友人・知人に電話したいと本人より希望があった場合は、職員付き添いにて公衆電話にて会話される。	○	自由に電話できる。 プライバシーに配慮できる環境を作りたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に関係なく訪問できている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制委員会に参加している。 委員会での良いところは取り入れている。利用契約書に組み込まれている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を施錠している。	○	2階であるため、転落しないようにしたい。 玄関周りをできるだけ家庭的にしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の見守り。夜間の巡視。さりげなく見守りができるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ポリデント等、異食行為防止のために、本人了承で倉庫へ管理している。	○	一人ひとりのレベルに応じての配慮をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書による再確認をしている。 週に1回検討会を開いている。	○	事故の原因の追求。SHEL分析し、話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル設置。	○	急変時に全職員が対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と共に火災訓練を実施している。	○	火災のみであるため、地震時についても訓練が必要。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会にて外出に伴う転倒のリスクを説明し、家族との話し合いも面会時を利用して持っている。	○	個人個人に伴いそうなリスクの把握をし、家族にも提示していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、外来との連携、体調観察。	○	一人ひとりのこまかな情報を把握し、急変時にも対応していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理のもと、服薬介助する。入居者一人ひとりの薬を注意する。	○	誤薬や間違いがないよう再確認して、徹底していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の強化を図り、歩行運動や簡単な運動をすすめている。	○	排便チェック表を作成し、日々の排便をチェックする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の預り・消毒、毎食後の口腔ケアへの声かけ。	○	定期的に歯科衛生士の指導を受けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、日々の変化を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	汚染物専用の手袋、手拭い等活用している。 消毒液・漂白剤の活用。	○	引き続き実行しているが、外部者や面会者の予防・感染防止にも努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	グループホーム内(給食)での衛生管理はできている。	○	本人管理の飲食物にも気をつけているが、面会者からの差し入れ等にも気をつけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を置いたりしている。	○	2階であるため、患者様の出入りには気をつけている。そのため施錠しているが、入居者様の自由は減ってしまっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂に花を生けている。 廊下・壁画には入居者作品の展示。	○	入居者様と一緒に壁画を作ったりしている。 浴室・トイレを家庭的な雰囲気にしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つのホールの中に和室・ソファ等設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みに合わせ模様替えをしている。	○	馴染みのある物をどんどん使っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気したり、冷房も付けたままにせず、体温調節を行っている。	○	窓がないトイレや風呂場はこまめに調節していくよう心がける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の周囲には気をつけているが、環境面では難しい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	他ユニットへの徘徊がある方とは職員同士の連携を図っている。 トイレに分かりやすく目印を貼っている。 本人の気になっているお仏壇を居室に置いてお供えをする等、気分の安定を図っている。	○	他ユニットとの連携をこまめにしていく。 馴染みのある目印を配置する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにベンチを設置して散歩したり、花壇の水やりができています。	○	畑などの土いじりができればいい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ハード面、体調面においても医療的となる為、各ユニットごとだけではなく、4ユニットの広さを利点とし大家族として、各入居者の状態を把握しゆったりと過ごしてもらえるようにしている。

又、入居者との話・和・輪を大切に、週1回は趣味・活動の日とし、スタッフも一緒に楽しんでいる。